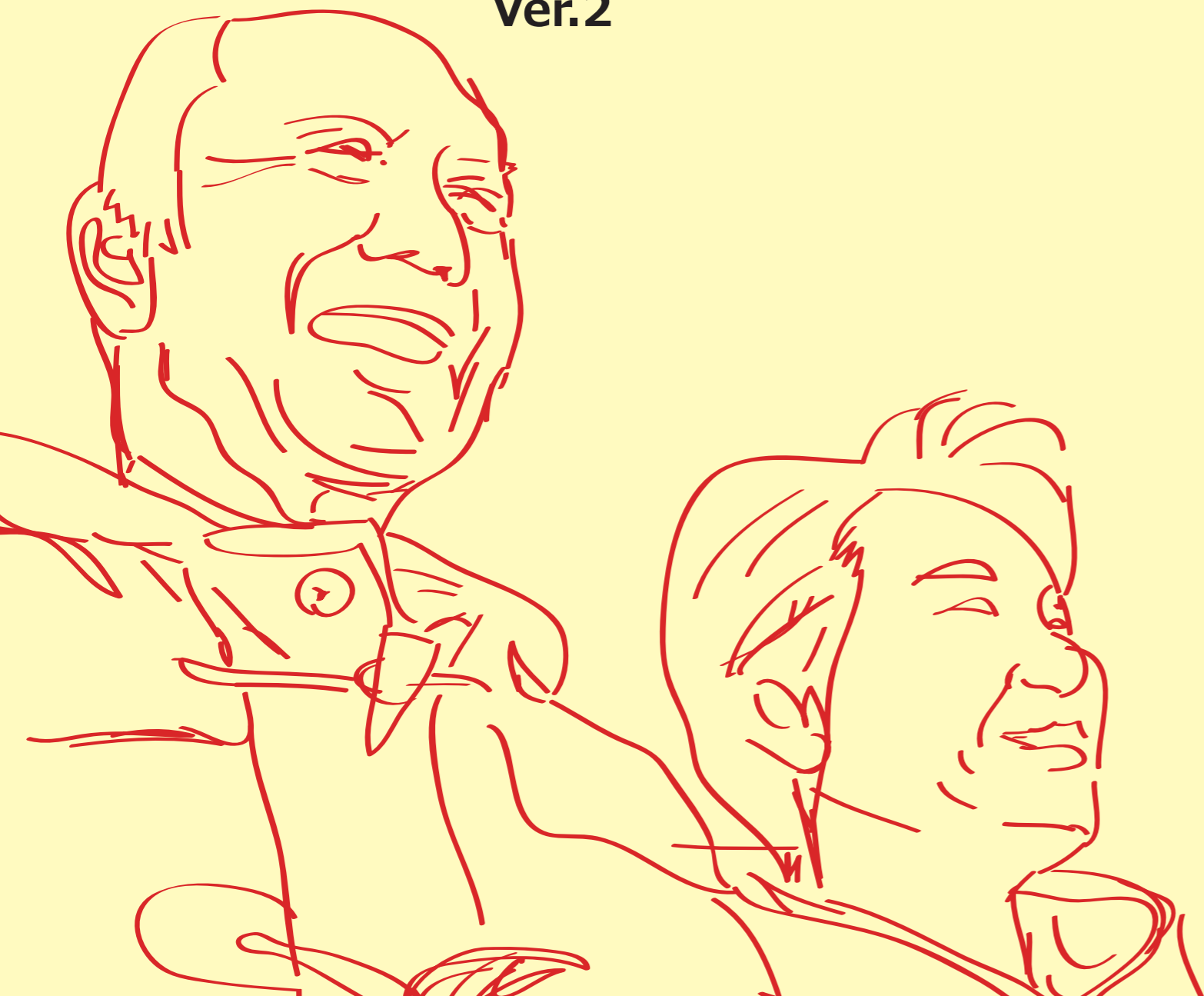


にっぽんの元気は健康から！



別冊「アガリクス特集」
Ver.2

美しい日本、
元気な日本。



あなたの健康を
喜ぶひとがいる。



仙生露
アガリクス茸

商品に関するご質問は、
仙生露取扱店もしくは、
下記フリーダイヤルまで

☎ 0120-680-111
(平日:9:00~18:00 ※土日・祝日除く)

🌐 www.s-s-i.jp

【総販売元】株式会社 S・S・I
東京都中央区日本橋大伝馬町2-5 石倉ビル3F



美しい日本、
元気な日本。

日本の元気は、
毎日の健康が大切です。
元気な体から
美しい日本、元気な日本へ。

目次

元気な日本は健康から

元気日和

別冊
Ver.2

『アガリクス特集』

特定非営利法人がんサポートコミュニティー
アクティブな患者を目指して

金沢大学大学院

太田 富久先生

長尾クリニック院長 がん難民コーディネーター

長尾和宏 × 藤野邦夫

帝京大学医学部

大野 智先生

医学博士 獣医学博士

竹内 実先生

八尾市立病院 病院長

佐々木 洋先生

仙生露 20周年記念

しなやかに生きる

社長インタビュー／アガリクス Q&A

平成27年10月1日改訂

発行人 竹口 雅之

発行所 株式会社 S・S・I

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町 2-5 石倉ビル 3F

TEL : 03-3660-1235 FAX : 03-3660-1236

<http://s-s-i.jp/>

© 本誌掲載記事の無断転載を固く禁じます。

安全で良質な アガリクスをお届けする それが私たちの使命です

株式会社S・S・I
代表取締役社長 竹口 雅之

発売以来、愛飲者が延べ800万人を超える実績を誇る「アガリクス茸 仙生露」。それほどまでに信頼される所以は、国内で安定した品質で生産される良質な原料と、国内で製造される製品、さらには多くの臨床試験により確認された有用性と安全性にあります。つまりは高い品質と“安全・安心”な裏づけが多くの方に信頼され、支持されているようです。そこで今回は、総販売元である株式会社S・S・I（エス・エス・アイ）の竹口社長に、「アガリクス茸 仙生露」の歴史・安全性や有用性・企業理念などを語っていただきました。



株式会社S・S・I
創業/平成17年7月(2005年)
設立/平成17年7月(2005年)
事業内容/健康食品・美容関連商品等の企画開発・製造・販売
代表取締役社長/竹口雅之
〒103-0011
東京都中央区日本橋大伝馬町2-5 石倉ビル3F
☎03-3660-1235 FAX03-3660-1236

「アガリクス茸 仙生露」が
選ばれる理由

「愛飲者は延べ八〇〇万人を超える「アガリクス茸 仙生露」。こうしてトップブランドになり得た理由は、安全で安心なこと、そして高い有用性を持つその品質に他なりません。

当社のアガリクス茸は、日本国内の二四時間徹底管理された専用施設で独自の発酵技術を用いた培地作りから栽培までを一貫して行い、日夜経験豊かな職人たちが丹精込めて育成に当たっています。栽培は、原産地の気候条件を経験と技術で再現。天然の栄養分をたっぷり入れた培地でじっくりと育てています。これにより良質な原料の安定確保を実現できていることが、私たちの強みの一つです。さらに製品化においては、衛生管理を徹底した工場にて製造。こうした工程を経て、消費者にとって安全・安心な商品をお届けしています。

一方、国内外の国立研究機関を含む臨床施設でさまざまな試験を実施し、安全・安心のさらなる追求にも余念がありません。国際的な安全性試験基準であるGLP^{※1}適合の施設で、二年間にわたるラットでの長期飲用

安全性試験を実施。この長期飲用試験実施後、すべてのラットの臓器、細胞を詳細に分析した結果、安全性にまったく問題がなかったことが確認されています。さらにヒト臨床試験においても、一〇年以上にわたって国内外一〇施設以上の医療機関等で二〇〇症例以上の方を対象に臨床試験を実施しており、いずれの試験も安全性について問題ないと判断されました。医薬品との相互作用についても、大学などと調査し、現段階では、医薬品の働きを阻害したり、増進させる結果は得られておりません。

また、安全・安心の取り組みをここまで徹底して行っているメーカーは他にはないと自負しております。

そして今、「アガリクス茸 仙生露」が注目されるもう一つの理由は、その有用性です。当社のアガリクス茸からはABMK²²という低分子有用成分が確認されています。これは一般的なアガリクス茸の有用成分とされているβ-グルカンなどの高分子成分とは異なるものです。この低分子有用成分であるABMK²²は、今や国を越えて注目されており、日本の健康食品としては初めてアメリカの国立研究機関のプロジェクトに採用され、現在も研究が進められていま

アガリクスの歴史 「アガリクス茸 仙生露」の誕生

アガリクス茸の原産地は、ブラジル・ピエグデーテ地方の山中です。この地域は昼と夜の寒暖差が二〇度以上と激しく、また定期的にスコールが降り、湿度が六〇%以上に達するなど特殊な気候条件を持ち、かつ土壌に豊富な栄養が含まれています。現地では、その美しく神々しい姿や、食べるに良いことから「神のキノコ」、また数が少なく収穫しても二日も経たないうちに溶けてなくなってしまうことから「幻のキノコ」と呼ばれてきました。

一九六五年、日系人の手によって種菌が初めて日本に運び込まれ、人工栽培が実現。その後も臨床試験な

す。

このように、安定的に供給される良質な原料、裏づけとなる臨床試験や安全性の調査、厳しい生産管理体制、さらには他にない有用成分と、それが健康食品先進国のアメリカで認められていることなどが、「アガリクス茸 仙生露」に対する消費者の皆さまの信頼に繋がっているのです。



アガリクス茸 仙生露

日本国内の専用施設で栽培されたアガリクス茸「ABMK」を南アルプスの伏流水を使ってじっくりと熱水抽出したエキスとアガリクス茸「ABMK」をフリーズドライ加工した顆粒を製品化しています。

どが活発に行われ、研究者たちの間では「健康によいキノコ」と高く評価されてきましたが、原料が安定的に手に入らないことや、栽培の難しさから、なかなか市場で見られることはありませんでした。

そんな中、私たちは長い年月をかけてアガリクス茸の生育環境を解明し、一九九二年に世界で初めて安定管理栽培を成功させたのです。そしてその二年後に、「アガリクス茸 仙生露」を商品化。やがて実際に使用された方々の口コミで少しずつ評判が広がり、その後のブームへと繋がりました。



仙生露の原料に使用している「アガリクス茸 ABMK」は、日本国内だけでなく、サプリメント大国であるアメリカでも、様々な特許を取得しております。
<日本>特許第4823519号/特許第4413599号/特許第4480204号など
<米国>特許第7611715号/特許第8034386号など



米国の厚生労働省に当たるFDA（医薬品食品規制庁）が認定する医師用卓上参考書。「アガリクス茸 仙生露」は、日本の健康食品として初めて記載されました。

※1 GLP (Good Laboratory Practice:優良試験所基準)とは、医薬品などの安全性評価基準の信頼性を確保するため、安全性試験施設が備えなければならない設備、機器、組織及び人員、試験操作の手順等について定められた基準です。日本では、厚生労働省、農林水産省、環境省などがそれぞれの分野で基準を定めています。

*上記特許及び医師用卓上参考書は効果効能を示すものではありません。

お客さま相談室
商品に関するお問い合わせはこちらからご連絡ください。

0120-680-111
フリーコール

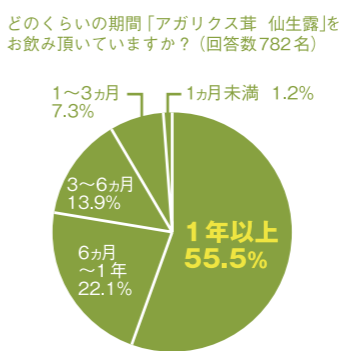
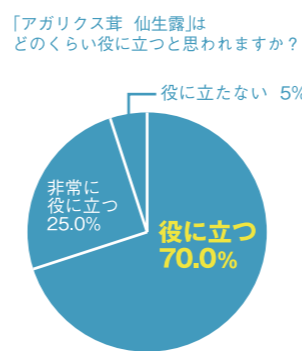
バイオニア企業として
責任と使命を担っている

私たちは業界のバイオニア企業であり、多くの責任や使命を担っています。アガリクス・ブラゼイ協会の会長企業として業界をリードし、日本統合医療普及推進協会には発足時より幹事企業として参加。また、病気をもちの方をサポートするコミュニティに対しても支援しています。さらに昨年発生した東日本大震災においては、東京電力福島第一原

子力発電所事故に際し、「アガリクス茸仙生露」を無償提供。放射線下での厳しい作業にあたる作業員の方々にご利用いただきました。

また、ご飲用いただいている方やお取扱いいただいている販売店の方より、生の声を聞かせていただく機会もあり、実際に飲まれた方の「元氣になった!」という喜びの声や、販売店の方の「これほどお客様から感謝される商品は他にありません」といった評価を耳にすると、やりがいを感じるのと同時に、その使命を改めて実感させられます。私たちはそれを供給できることに喜びを持ちつつ、さらに多くの方々に愛飲していただけるよう努めてまいります。

健康食品はこれからの日本社会において欠かせないものとなるでしょう。そうした中、安心して信頼できる商品を選ぶ目を持ってください。元氣、健康のために「アガリクス茸仙生露」をご飲用ください。



出典：担子菌アガリクス・ブラゼイ・ムル抽出液飲用により体感された効果の評価（日本人がん患者に対する調査）。James A. Talcolte（マサチューセッツ総合病院がんセンター効果調査センター、ハーバード大学医学部）。Jack A. Clark（エディス・ノース・ロジャース記念退役軍人病院 健康度・予後・経済研究センター、ボストン大学公衆衛生学部）。Insu P. Lee（金沢大学大学院医学系研究科臨床研究補完代替医療学講座）

※2 アガリクス・ブラゼイを使用した商品の品質を認定し登録することで、アガリクス商品の信頼性を確保し、健康食品市場の信頼性を高めることを目的に二〇〇六年九月設立。

※3 日本統合医療普及推進協会とは、治療に重きをおく西洋医学を中心とした現在の医療に、予防に重きをおく補完代替医療を統合することで、広い医療（統合医療）の実現を目指し、補完代替医療の普及啓蒙・推進を行う為に二〇一一年六月に設立された団体。

が苦手な方は、オレンジジュースで割ったり、お味噌汁に混ぜたり、スダチを二〜三滴入れるだけで、とても飲みやすくなります。カレーなどの味の濃い料理に入れていただければ、風味も増す上に、お子様など味が苦手な方にもお召し上がりいただけます。



Q 飲む量はどれくらいですか?

A 食品ですので特に指定はありませんが、1日1袋〜3袋が目安です。様子を見ながら、ご自分に合った量をお飲みください。

Q いつ飲んだらいいですか?

A 医薬品ではないので、特別に定めはありません。朝食前などの空腹時に飲用されている方が多

いようです。味などの好みもありですので、食後でも全く問題ありません。ご自身の体調とご相談の上、ご飲用ください。

Q 薬と併用して飲んでも問題ありませんか?

A 基本的に食品ですので問題ありません。治療などでキノコを制限されている場合やご心配な方は医師にご相談ください。



Q 人工栽培のメリットは何ですか?

A 健康食品は、常に高品質な原料を安定的に確保しなければなりません。アガリクス茸は、生育

もっと知りたい!

「アガリクス茸仙生露」Q&A

Q 「アガリクス茸仙生露」にはどんな栄養素が含まれていますか?

A ビタミンが八種類、ミネラルが九種類、必須アミノ酸が九種類全て、準必須アミノ酸が三種類、核酸が六種類、その他アミノ酸が八種類。三種類のその他栄養成分も含まれています。さらに、ABMK-22などの低分子有用成分も確認されています。

分析結果

ビタミン (8種類)	ビタミンB1、ビタミンB2、ビタミンB6、葉酸、パントテン酸、ビオチン、イノシトール、ナイアシン
ミネラル (9種類)	リン、鉄、カルシウム、マグネシウム、銅、亜鉛、マンガン、セレン、カリウム
必須アミノ酸 (9種類)	リジン、ヒスチジン、フェニルアラニン、ロイシン、イソロイシン、メチオニン、バリン、トリプトファン、スレオニン
準必須アミノ酸 (3種)	シスチン、チロシン、アルギニン
核酸 (6種類)	5'-グアニル酸、アデニン、ウラシル、グアニン、シトシン、チミン
その他アミノ酸 (8種類)	アラニン、アスパラギン酸、グリシン、プロリン、グルタミン酸、セリン、γ-アミノ酪酸(ギャバ)、オルニチン
その他栄養素 (3種類)	エルゴステロール、コリン、β-グルカン

Q 「アガリクス茸仙生露」はどんな種類がありますか?

A 「アガリクス茸仙生露」は大きく分けて、顆粒タイプとエキスタイプの二種類があります。顆粒タイプはスティック袋に入っていますので、そのまま水などと一緒に飲みください。エキスタイプはレトルトパックになっていますので、グラスに移してそのままお飲みください。

Q 「アガリクス茸仙生露」はどんな味がありますか?

A キノコの味です。キノコの味

Q 他社の製品と比べて吸収力に違いはありますか?

A キノコは細胞壁が硬く、そのまま食べても栄養のほとんどを吸収できません。そこで、「アガ

リクス茸仙生露」では、エキスの商品はキノコから有用成分を熱水抽出しています。顆粒の商品については、キノコをそのまま粉末にするのではなく、キノコから有用成分を熱水抽出した後、キノコと有用成分と一緒に凍結乾燥して粉末にし顆粒化することで、有用成分が効果的に摂れるだけでなく、茸の植物繊維も同時に摂れるように工夫されています。

ご愛飲者の声



JPBA 会長/女子プロウラー
中山律子さん

健康の大切さを実感する日々。
毎日続けて飲んでいきます

10年以上前よりご縁があって仙生露を飲んでいきます。私たちの年代は「健康」が気になる世代。自分のやりたいことをするためにも健康管理が大切です。仙生露を飲みはじめてからは、元気にいろんな物事に取り組めるようになりました。今こんなに健康に自信が持てるのも仙生露のお陰だと感謝しております。

お客さま相談室

商品に関するお問い合わせはこちらからご連絡ください。

フリーコール 0120-680-111

アガリクス茸 仙生露ができるまで

※エキス商品の場合

徹底管理された室内において、培地作りから栽培、選別、製品化まで、アガリクス茸 仙生露の製造工程をご紹介します。

	<p>培地作り・発酵</p>	<p>培地の原料を、混ぜて発酵、混ぜて発酵を繰り返します。仕上がりは、見た目、匂い、感触、水分、均一に発酵しているかを職人が五感を使って見極めます。良質なアガリクスはまさにここから始まります。</p>
	<p>種菌工程</p>	<p>1つのキノコから、菌を取り、少しずつ増やしていきます。雑菌（その他の菌）が少しでも入れば失敗になります。増やした種菌を更に増やします。ここでも雑菌が大敵です。完璧なものだけが次の行程にすすめます。</p>
	<p>培養</p>	<p>種菌を培地に接種し、土全体に菌がまわる様に培養します。全体にまんべんなく菌が広がっていないものは、この時点で廃棄されます。</p>
	<p>覆土・栽培</p>	<p>キノコが子実体になるには、種を守るための危機感が重要です。危機感を演出するために覆土を行っています。最高のアガリクス茸を作るための環境を経験と技術を用いて実現しています。</p>
	<p>茸洗浄・殺菌・乾燥</p>	<p>洗浄は熟練のスタッフが1つ1つ手作業で丁寧に行います。そして独自の乾燥機にてじっくり乾燥させます。</p>
	<p>篩・選別・異物除去</p>	<p>乾燥したアガリクス茸は、経験豊かなスタッフが手作業で篩にかけ、選別し、目視にて異物を確認し、除去していきます。</p>
	<p>エキスの抽出</p>	<p>エキスを抽出する工場に乾燥アガリクス茸を搬入し、ここでも異物検査などを行います。天然物であるキノコからいつも同じエキスが抽出できるようキノコの色、形、大きさを熟練した経験を元に確認し、釜で煮出します。</p>
	<p>エキスをブレンド</p>	<p>キノコから抽出したエキスと特殊工程を経たABMK低分子抽出物をブレンドし、定められた濃度に調整します。</p>
	<p>パック・殺菌処理</p>	<p>レトルトパックに詰められたエキスは、123度で15分間、殺菌されます。雑菌の繁殖を抑えるために、抽出から殺菌まで速やかに作業が行われます。</p>

包装・出荷

アガリクス茸 仙生露ができるまで

アクティブな患者を目指して

特定非営利活動法人
がんサポートコミュニティの
活動に迫る。

株式会社S・S・Iは、特定非営利活動法人
がんサポートコミュニティを支援しています。



身体的にはもちろん、社会的、心理的な苦しみが大いではないでしょうか。そこで辛さを本気で共感できる場があれば、患者さんは本来の自分を取り戻すことができるはずです。

また、病院、行政などにはさまざまなサポートシステムがあるにもかかわらず、患者さんはその情報を手に入れにくかったり、活用しにくい場合があります。そこで私たちはネットワークを張り巡らせ、患者さんと行政・病院などの間に立つ「ハブ」のような役割も担います」

コミュニティの活動は、看護師やソーシャルワーカー、臨床心理士といったサポートグループによる患者さん同士の語り合いの場、ヨガやアロマセラピー、自律訓練法と



渥美 隆之(あつみ たかゆき)
名古屋大学医学部卒。
東京通信病院外科、などを経て、2001年がんサポートコミュニティ(当時ジャパン・ウェルネス)設立に関わる。2010年理事長就任。

いったりラクゼーションプログラム、がん患者さんとご家族、そして広く社会に向けたがん知識・意識の向上を目指した啓発プログラムなど実にさまざまです。

「アクティブな患者とは、患者さんと医療チームがタッグを組んで、積極的にガンと向き合う姿勢であるということです。」

また、ガンと診断されることは到着点ではなく出発点であるというこゝとです。とくにターミナルケアといううと終着点というイメージがありますが、ここが終着点ではなく、新たな



特定非営利活動法人
がんサポート
コミュニティ

CANCER SUPPORT
COMMUNITY

東京都港区虎ノ門 3-10-4
虎ノ門ガーデン 214 号室
【電話】03-6809-1825

アクティブな患者を目指して

がんサポートコミュニティは、がん患者さんとそのご家族のために、臨床心理士、ソーシャルワーカー、看護師といった専門家による心理社会的なサポートを提供する特定非営利活動法人です。創立者は外科医であり、自らもがん患者として「医者が痛にかかったとき」の著書もある故・竹中文良博士。現在、理事長を務める渥美隆之医師が、同コミュニティの役割を語ります。

「日本には素晴らしい医療と保険制度がありますが、ご本人も家族も、

手軽に多くの人が利用できるよう
アガリクスの研究に着手

竹口 今日はお忙しいところありがとうございます。早速ですが、太田先生がアガリクス茸を研究対象にしようと思ったきっかけをお伺いしたいと思いますのうです。

太田 もともと私は東北大学で天然物化学や生薬学という分野の研究をしていました。キノコ類、カビなどのいわゆる菌類の研究です。そこでキノコ類には免疫賦活作用があることはよく知っており、実際に病気で苦しんでいる方に、ブナ林

に自生しているサルノコシカケを煎じて飲ませてあげたりもしていたのです。

しかし、サルノコシカケは山を駆け巡って採って来なければならない（笑）。成分の抽出も大変なんです。そこで、もう少し手軽に手に入って、みなさんが利用できるキノコはないだろうかと思っていました。

その後、金沢大学に移り、新しい研究室を立ち上げたのを機に、それまでも健康に効果があるということでも知られていたアガリクスの研究を開始したのです。

竹口 管理栽培されたアガリクス茸は品質が安定していて、研究にむいていたん

ですね。

では、先生の考えるアガリクスの魅力は何でしょうか？

太田 まず抽出の方法ですが、酸やアルカリなどの化学薬品を加えずに、単純に熱抽出でいいということがわかりました。90度から100度くらいで1時間抽出すると、有効な成分が抽出できることがわかったのです。

竹口 有効成分というのは、どのようなものですか？

太田 ラットの試験を行う中で、様々な効果があることを確認しました。その成分は、健康維持のために有益な成分であ

遺伝子レベルから研究が進む 人間の健康を助ける アガリクスの未知なる力

未だ名前さえ知られていない種類が数多く存在する菌類の世界。

酒や味噌、醤油などを作る働き者として、生活に欠かせない存在です。

菌類の代表ともいえるキノコも、健康を保つための有効性が認められている生物です。

そこで長年にわたって食品に関する多くの研究を行う金沢大学の太田富久教授に、アガリクスの持つ可能性について伺いました。



アガリクス茸

原産地は、ブラジル・ピエダーテ地方山中。その健康効果・希少性から「神のキノコ」「幻のキノコ」と呼ばれており、1965年初めて日本に種菌が運び込まれ、研究者たちの間では「健康によいキノコ」として高く評価されてきました。1992年生育環境を解明し、安定管理栽培に世界で初めて成功。



太田富久(おおた とみひさ)
金沢大学大学院教授。薬学博士。1969年、東北大学医学部薬学卒業。日本薬学会・アメリカ化学会所属。生理活性や食物・薬物の相互作用、抗ストレス科学、免疫賦活性物質の探索と評価などの分野での研究を行う。企業と共同で放射線汚染水処理物質の開発チームに携わり、2011年5月に研究段階において一定の効果があるとの実験成果を発表。

健康維持にも多くの
可能性を秘めたアガリクス茸

竹口 一般的に知られていることかもしれませんが、体の免疫力をあげることは、健康にとって非常に重要なことなのです。

太田 そうですね。免疫力が高いかどうかも大事ですし、いくつか種類のある免疫のバランスがいかどうか、人間の健康状態に大きな影響を与えています。それは自分の体の直感として感じることもあるのではないのでしょうか。たとえば免疫のバランスが崩れると、

様々な病気が起こりやすくなると言われています。免疫バランスを整えることも、日頃の健康維持に有効であるといえます。

竹口 人によっては、健康を害したとき、薬を飲む道と、食品から有効な成分を採り入れる道があると思うのですが、その選択をどのように考えたらいいのでしょうか。

太田 薬には色々な効果があります。一方の食品ですが、健康を保つ「機能性」を持つ食品は、「切れ味」「即効性」は、薬ほど鋭くありません。そして効き目には個人差があります。それは個人の遺伝子の違いなので、仕方のないことなので

すが、薬を飲みながら、足りないところは食品で補うという形がいいのではないかと思います。

竹口 たとえば、こういった方法がい

いのでしょうか？
太田 たとえば風邪をひいたときに抗生物質を飲むことがあります。それは風邪そのものを治すものではありません。抗生物質で症状を抑えながら、食品で自己防衛力や免疫をあげて治すのです。

私たちの体は『恒常性』といって、恒に同じレベルを保とうという力があります。恒常性のバランスが崩れることが、

ることがわかり、ABMK-22と呼んでいます。

近年に至るまで、キノコ類の免疫賦活作用は、βグルカンという高分子の成分によるものと説明されてきました。しかしABMK-22は低分子です。さらにABMK-22に含まれた1SY-16という、より低分子の成分が、健康維持のために非常に活性が高いこともわかっています。

竹口 やはり低分子の成分のほうが、体に吸収しやすいということでしょうか？

太田 最初は低分子だから腸管から吸収しやすいということを1つの要素と考えて、研究を行っていたのですが、最近になって腸管というのは、栄養分を吸収するだけでなく、自然免疫を行うための受容体が腸の内側にたくさん出ていることがわかったのです。

これは「Toll様受容体」といって、免疫力を賦活（物質の機能や作用を活発化させること）させる機能があると

言われています。

実は人間の免疫を担う部位は、若いときには胸腺なのですが、中年以降になると腸管が全身の約70%の免疫機能を担っています。つまり、食品として体内に取り込んだ成分が、栄養分としてだけでなく、免疫賦活のためによく働いてくれるということが考えられるのです。

体の不調を起こす一つの要因ともいわれています。これをもとに戻すことができるのは食品だと思います。

竹口 なるほど。バランスを整えるという点でも、アガリクス茸をはじめ、食品には、まだまだ秘めた可能性がありそうですね。

太田 そうですね。私は今まで、重大な疾患に関する研究に特化して行ってきました。しかし、日々の生活の中にある、ストレス、紫外線、放射線、生活習慣病などに関する影響も改めて研究したいと考えています。アガリクス茸は、人の健康面において、多面的に貢献できる食品であると思っています。

何しろ、キノコを始めとした菌類は、数千種類存在すると言われていて、名前さえわからない菌も数多く存在します。わかっているキノコ類についての研究数さえ、まだほんの数%です。しかも年々、新しい技術を使った研究方法も現れているので、アガリクスの新しい機能性を発見する可能性は非常に高いと言えるでしょう。

竹口 本日は貴重なお話どうもありがとうございます。

インタビュー
株式会社 S・S・I 代表取締役 竹口雅之



しなやかに生きる

「みずから選択する賢いがんケアのすゝめ」

2人に1人はガンに罹患すると言われる時代。抗がん剤を使用した薬物療法は日々進化する中、がん宣告をされた日からのように生きるべきか、戸惑う人は多い。そこで日本ホスピス在宅ケア研究会理事も務める医師の長尾和宏氏、みずからもガンを克服し、「がん難民コーディネーター」の著書もある藤野邦夫氏にお話をうかがった。



インタビュー
（株）S・S・I 竹口雅之

竹口 現在、ガンに罹患する方は日本国民の2人に1人、3人に1人がガンで亡くなると言われています。この数を見てどのようにお感じになりますか？

長尾 ガンになるかどうかという前に、日本人の平均寿命が増えているという現実があります。長く生きるということは、それだけさまざまな病気にかかる可能性も増えるということですね。もはやガンはありふれた病気です。しかし人はガンになると「なぜ自分が？」と思うのです。特別な不幸として認識することに、私は違和感を感じます。そこでまず、ガンによる死亡率という数字を、いま再び確認して欲しいのです。2人に1人がガンに

罹患し、3人に1人がガンで亡くなるということは、6人に1人はガンにはなるけれど、ガンを要因として亡くなっているのではないのです。その方たちは早期発見、早期治療で治っているのが現実だということです。

藤野 2人に1人がガンということについて、もう少し具体的に言いますと、どの家庭もガンとは無関係ではないということですね。家族が2人以上で成り立つと仮定すれば、どちらか1人ということになります。

2点目は医療のいいとこどりをすること。よく、医療否定をする方がいますが、日進月歩の科学を全否定したら損ですね。

3点目は、現代は統合医療の時代だということですね。近年、人々が悩みながら決定的な治療法がないのはガンだけではなくありません。生活習慣病しかり、腰痛みしかり。そのような症状の根本的な原因は老いですね。老いを治療することはできないのですから、免疫力を高めたり、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高めたりする必要があります。

もちろん保健医療は素晴らしいですし、医療の進歩も日進月歩です。しかしそれだけでは完結しないということに、医師

自身が気づき、医療の中に取り入れる必要があると思うのです。

藤野 がん患者さんがよく「いいサプリメントとか漢方薬はないですか？」と聞いて、医師を怒らせることがあります（笑）、それは聞いてはいけません。統合医療は正統派の医療をサポートして、副作用などの弊害をできる限り抑えるものと考えていいでしょう。統合医療は魔法の杖ではありませんが、体力を維持しながら治療効果をあげる役割として有効でしょうね。

長尾クリニック院長

がん難民コーディネーター

長尾和宏 × 藤野邦夫



長尾和宏（ながお かずひろ）
昭和59年東京医科大学卒。大阪大学病院勤務医を経て平成7年に長尾クリニック開業。日本ホスピス在宅ケア研究会理事を務める。

統合医療とは
西洋医学を中心として、西洋医学では力の及ばないところを補完。代替医療で補うことにより、患者に行う総合的、全人的医療。漢方医学、健康食品・サプリメント、アロマセラピー、カイロプラクティック、鍼灸などが含まれる。西洋医学が病気の根本原因を除いたり、対処療法を中心としているのに対し、補完・代替医療は人間のもつ自然治癒力を目覚めさせ、心身のバランスを整え、免疫力の向上を目的としている。



藤野邦夫（ふじの くにお）
フランス文学者、翻訳家、評論家。出版社勤務のち、2008年に自身のガン体験を経て「がん難民コーディネーター」として活動する。

竹口 藤野さんの著書『うろたえないガン治療（潮出版社）』に、がん治療は最初が肝心だとありました。

藤野 大事なことは、最初にガンと診断されたら、信頼できる人、あるいは家族と一緒に病院に行って、自分の病状を正確に認識することです。どこにどれだけの大きさがあるのか、いくつあるのか、ステージはどうかを自分でしっかりと認識するんです。その場で少し質問しただけでは、認識するのは無理ですよ。まず1回目は医師が提案する

治療法を聞いて、そのあとはひとまず家に帰って、そこからさまざまな人に相談したり、自分なりに調べたりするんです。きつといういろいろな疑問が湧いてくると思うのですが、整理をするとそんなに問題点はないはずですよ。すぐに決定的な治療法が見つかるわけでもないし、ガンは待っていたらどんどん進行するものでもない。案外時間があるんですよ。

長尾 確かに初回治療ですべてが決まると言っても言い過ぎではないと思います。医師との相性なども考えながら、納得できる初回治療を行なってください。そのためにはじっくりと勉強する必要があります。それがガンと向き合うための1点目の注意点です。

竹口 がん患者さんは、ずっと抗がん剤を使い続けるべきなのか、あるいは痛みや苦しみを取り除くことを考えて、抗がん剤をやめたほうがいいのか、どこで見極めをしたらいいのか悩むという場面にたびたび出会いますが、どのように考えたらいいのでしょうか。

藤野 それは一般化できる問題ではないですね。体力、年齢、あるいはガンのステージによって、一人ひとり違いますから。

長尾 がん医療には攻めると

きと守るときがあると思います。サッカーの試合でも、攻めから守りに転じなければならぬときがあるように。しかしその見極めは、どうしても患者さん自身が必要になります。医師は結局のところ、患者さんのリクエストに応じて治療をするものなので、そこで自己決定をするためにも、患者さんは賢くする必要がありますね。

私は早期治療の段階から、統合医療を採り入れるべきと考えます。漢方などは統合医

療の代表ですが、『食』も統合医療の一環だと思います。人生の最後まで美味しく食べるといふことの重要さを、医療は忘れていてはないかと思えます。東洋医療の中心は「食」ですよ。体にいい食材を経験的に知っているからこそ、漢方が生まれたわけですね。

人間には、最後まで快食・快眠・快便ができるかどうか、その人らしく、人間らしく生きるクオリティ・オブ・ライフ（QOL）をどこまで維持できるかも大切なことです。きのこは日本の文化的栄養補助食品ですから、QOLを高める選択肢として、十分な可能性を秘めているでしょう。

ガンとわかったときから、肉体的な痛みだけではなく、精神的・社会的な痛みも取り除くのが緩和ケアであり、統合医療なんです。私は医師として、治療という狭い概念だけでなく、患者さんに向き合っているとは思っています。

藤野 僕自身も昨年、胃がんになり、内視鏡の手術を受けました。また、がん患者さんや家族の方から6千通を超えるメールを受け、数百人の患者さんと共にガンと向き合った経験から言うと、あらゆるがん治療は発展途上なんです。しかし半年ごとに新しい薬や治療法が出てくる時代です。だからこそ、賢い患者になって欲しいんです。何よりも、いろいろ調べはじめると元気が出るものですよ。

アガリクス茸はがん患者の生活の質(QOL)を改善

厚生労働省がん研究助成金を用いた

「がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究」班において

「がんの補完代替医療ガイドブック」の制作にかかわり、研究班として公的予算によるアガリクス茸製品を用いたヒト臨床試験の実施に携わった

帝京大学医学部の大野先生に

今回発表されたアガリクス茸に関する論文についてお聞きしました



帝京大学 特任講師 医学部臨床研究医学講座
臨床研究センター 医学博士

大野智

大野智(おの さとし)
帝京大学医学部臨床研究医学講座 特任講師/早稲田大学先端科学・健康医療融合研究機構 客員准教授 1971年、静岡県浜松市生まれ。1998年島根医科大学(現島根大学医学部)卒業。腫瘍免疫学、がん免疫療法を主な研究テーマにしているが、補完代替医療や健康食品にも詳しく、「がんの補完代替医療ガイドブック」の作成を担当した。帝京大学緩和ケア内科、東京女子医科大学消化器外科などで癌患者の診療に当たっている。

ス茸に関しては、抗がん剤治療中の患者さんに本物と偽者を飲ませるランダム化比較試験が実施されており、安全に投与が行われ、NK細胞(ナチュラルキラー細胞)の活性化と抗がん剤の副作用を軽減したという研究結果がありました。また、アガリクスを飲用しているがん患者800名弱における生活の質(QOL)に関するアンケート調査も学術論文として発表されていて、有効性を示唆する結果となっていたので、さらに別の切り口で研究する必要があると思いました。そこで西洋医学でがんの標準治療がいったん終わっている人たちが対象と、手術や抗がん剤治療などで体力など落ちている人たちがアガリクス茸を飲み続けることによってQOLが改善するかを研究することにしました。仙生露を毎日飲んでもらい飲用前と飲用6か月後にそれぞれQOLに関しての8項目の質問票を渡し、回答してもらいました。この質問票はこのようなQOLの評価をする際に世界的に使われているもので、大きく分けて身体的健康度、精神的健康度についていくつかの質問に答える形で評価してもらいます。

なぜQOLの改善に関して研究をしたのですか？

QOLとはクオリティオブライフ、つまりその人が人間らしく生きられるかということを尺度としてとらえる考え方です。現

在は、がん患者さんの治療に関して、さまざまな治療法があります。以前は一日でも長く生きる、つまり延命治療というものが重要とされ、その結果、副作用に苦しむ患者さんも少なくありませんでしたが、今は、治療効果、副作用、患者さんの価値観や意向なども含めて総合的に考えます。そこで治療方針の決定の中に患者さんのQOLというのは重要なファクターになるのです。どこかが痛い、眠れないということになればQOLは下がりますから、西洋医療の分野のみならず、それをさまざまアプローチで緩和する必要があるんです。ですから、健康食品を含めた補完代替医療によってQOLが改善するかどうかということとはとても大事な研究テーマになると私は思っています。

研究の結果はいかがでしたか？

全体として8項目の質問のうち5項目において改善が認められました。さらに詳細に分析していくと、男性は主に身体的健康度の改善、女性は精神的健康度が改善したという結果が得られました。それから、高齢(66歳以上)の方は身体的健康度(身体機能・痛み)が改善、若年(65歳以下)の方は精神的健康度の改善がみられました。今後、アガリクス茸を飲まなかったときや、他の食品や医薬品と比較したときはどうなのかというデータ

を取らないと正確なことはわからないのですが、アガリクス茸はQOL改善に一定の効果があることが確認できました。さらに、こういった成分が有効なのは今後の研究によりますが予備的な研究として成果が得られたと考えています。

アガリクス茸によってQOLが改善されるのですね。

今回の研究ではそうになりました。ただ、ひとつ気を付けてほしいのは、アガリクス茸といっても産地、作り方、製造方法で全く異なります。お薬だと有効成分の化学構造式が決まっていますが、この会社で作ろうと変わりが無いという前提で作られています。これが「ジェネリック医薬品」ですね。ところがアガリクス茸など食品の場合は、栽培方法や生産地によって栄養も全く変わってくるし、製造方法などでも安全性、有効性が変わります。実際、アガリクスという商品名がついていても、アガリクスの菌糸体(キノコになる前の菌糸)のみを使っているメーカーと子実体(キノコ)を使っているメーカーがあったり、含有量も製品ごとにまちまちだったりすることが多いのです。同じ「アガリクス茸」といっても違うものとして考えてもらってもいいぐらいです。原材料や製造方法など品質管理を開示しているもの、問い合わせにきちんと答えてく

大野先生がアガリクス茸を研究しようと思ったきっかけは？

私は1998年に医学部を卒業し、消化器外科の研修医として病棟に勤務していたのですが、がん患者さんが何か健康食品を利用しているというのを感じていました。その後、2002年に金沢大学に移り、がんの補完代替医療(医療機関での治療のほかに民間療法などで補完する医療のこと)を研究するグループのメンバーとしてかわり、「がんの補完代替医療ガイドブック」を編集制作しました。ここには補完代替医療の実態調査が資料として載っています。が、おどろきっぱいってがん患者さんの約2人に1人はなんらかの補完代替医療を利用しています。そして、いけばん多く利用されていたのが健康食品・サプリメント、その中で一番多く使われていたのがアガリクス茸で、約60パーセントの人が利用していました。あのとき病棟で飲んでいたのはアガリクス茸だったのかと改めて思いながら、研究者としてきちんとした形で検証をしたいと思いました。また、これだけの人が使っているということは患者さんが何かしらの効果を感じているのではないかという一臨床医としての好奇心も湧き上がりました。

臨床研究のステップはまず、安全性を確かめ、次に有効性、更に、他の治療法と比較検討するという段階を経ます。アガリクス茸を利用するものを使っていたかと思えます。私たちがデータや先行研究をあたって、今回の研究の際に仙生露を使用しました。信頼のおけるものをご自身で選んで使うことをお勧めしたいですね。

表 B 健康食品・サプリメントの内訳

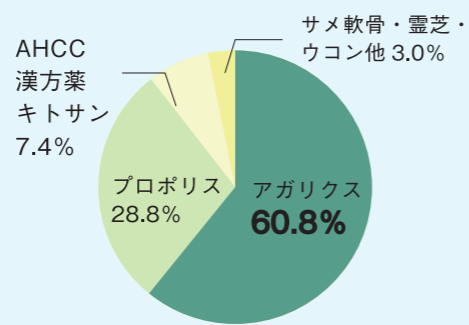
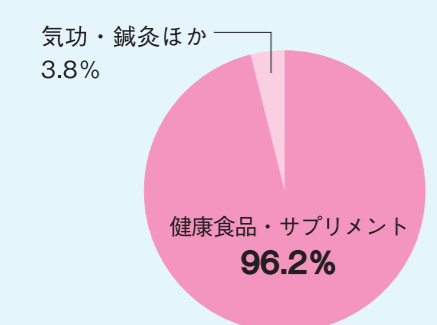


表 A がん患者さんが利用する補完代替医療



出典:「厚生労働省がん研究助成金 がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究」より

がん患者の95%以上の方が健康食品・サプリメントを利用しており、アガリクスの利用率は約60%と際立って高いのがわかる。



喫煙による肺がん、感染症、さらさらに。ペットの健康維持まで多くの可能性を秘めた「好中球」

「喫煙でガンになる人とならない人、両方いるのはなぜか？」という疑問から始まった竹内教授の研究は、白血球の一種である「好中球」の動きに注目しました。今回、竹内教授に好中球の持つ様々な可能性について伺いました。

竹内教授の専門分野のひとつである生体免疫学。これまでタバコ喫煙が肺に及ぼす影響をはじめとして免疫、ガン増殖・転移、DNAの損傷への影響について研

究してきました。そこで注目したのが、肺の中にある「肺胞マクロファージ」という免疫細胞です。マクロファージは白血球の一種で、体内

では正常な状態ではなくなってしまうマクロファージを回復させるためにはどうしたらいいか？ ということで注目したのが、天然成分であるアガリクスです。」

竹内教授は2001年よりアガリクスの免疫賦活能力に着目し、マウスを使って研究を行ってきました。その研究過程において増加したのが「好中球」。これも白血球の一種であり、生体内に侵入してきた殺菌などを貪食し、感染を防ぐ役割を果たします。

「ガンになったマウスは免疫機能が低下して感染症を起こします。そこで好中球を活性化させると、好中球が増加し、細菌感染に働きかけることがわかりました。何よりも好中球を活性化させたマウスは妙に元気だという印象がありました。」

生体内の異物に向けて一直線に動く好中球

好中球を活性化させると、細菌を「貪食」し、殺菌し、免疫を調節する能力があるという結果が出た後、研究室は好中球のさまざまな機能に着目します。

「研究を行って、まずわかったことは、活性化された好中球は、その運動能力を

に侵入した細菌や異物を捕食して消化する、いわゆる身体の中の清掃係のような役割です。

「タバコ煙はいろいろな粒子をたくさん含んでいます。あまり知られていませんが、PM2.5も含まれています。これは粒子が小さいために肺の末端まで入り込みます。」

PM2.5のような異物が入り込めば、当然マクロファージが捕獲して、食べて排除しようとしています。しかし異常な粒子を食べることによって、マクロファージ自体が異常になり、本来の役割であるガン細胞の抑制ができず。むしろガン細胞を発生させることにつながっていることがわかりました。

うな判断は出来ないでしょう。天然由来の成分だからこそ、炎症を抑えるのか、細菌を殺すのかという判断など生体維持の働きをするのではないかと考えます。

生体に複雑に働く

喫煙がガン発生に与える影響を研究してきた竹内教授は、異常な肺胞マクロファージを正常に戻す可能性もあると語ります。

「タバコ煙はDNA損傷を引き起こします。そのような損傷を防ぐ、修復する、あるいは予防するという作用をするかどうか、現在研究を進めています。また、炎症を抑えるというデータもあるので、鼻炎やアレルギーなどにも何らかの作用があるなど、さまざまな可能性を感じます。」

獣医師でもある竹内教授は、ペットの健康維持にも有効であると語ります。

「人間と犬・猫では、病気の種類が違うことが多いのですが、健康維持に関しては同じです。応用健康科学的に考えたら、老齢犬にサプリメントで与えたら、免疫機能をあげ、長生きできるということは十分に考えられます。近年では室内で飼われるペットが多く、寿命も伸びている

竹内 実 医学博士 獣医学博士

1951年、京都生まれ。山口大学大学院農学研究所修了後、獣医師として臨床診療を経験。のちに京都大学胸部疾患研究所を経て、1993年に京都産業大学工学部生物工学科に赴任後、改組により現在、総合生命科学部 動物生命医科学科に所属。喫煙とガン、天然成分と免疫システムについて基礎医学研究を行う。

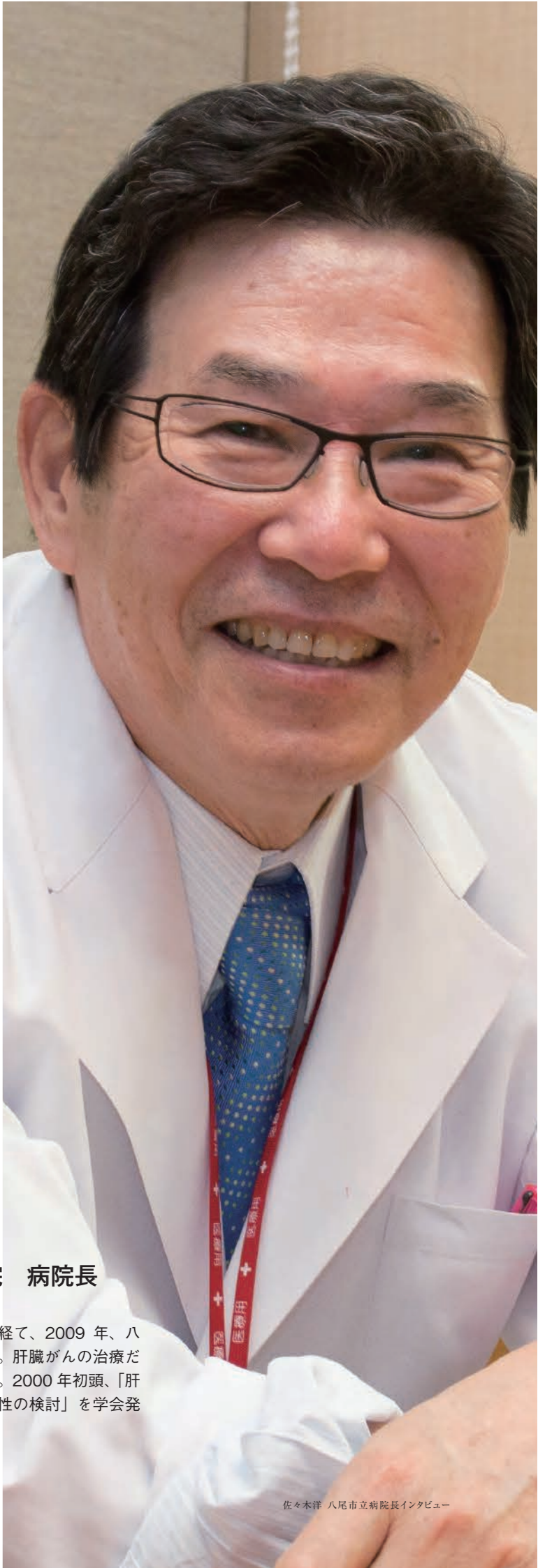


ので、従来にはなかった病気も増えていきます。すなわち人間の成人病のようなものですね。人間と同じくペットの高齢化が進めば、免疫機能をあげるサプリメントへのニーズは高まるのではないのでしょうか」

アガリクスなどのサプリメントは、すでに動物病院などの現場で導入されているところもあるそうです。ペットが人間の伴侶になりつつある時代、いつまでも元気でいてもらうための選択肢の一つかも知れません。

京都産業大学
1965年創立。開校当時は経済学部と理学部の2学部だったが、2013年現在9学部、大学院9研究科、8研究所、センターからなる大学をはじめ、附属中学・高等学校・幼稚園を有する総合学園である。京都・神山キャンパスにある「神天文台」には口径1.3mの反射式望遠鏡が設置され、学生や教職員のみならず、一般市民を対象とした天体観望会を実施している。





佐々木洋 八尾市立病院長インタビュー

肝臓がんの手術後にアガリクス

肝臓がんの手術後にアガリクスは1つの選択肢。

そんな予測のもと、科学的に評価しようとしたのが、佐々木院長。

実際、どんな結果が得られたのでしょうか。佐々木先生にお聞きしました。

関西で腕の良い肝臓外科医と言えば、佐々木院長。そう言われるほど、佐々木院長の実績は豊富です。手術数はこれまで約2000例、院長になった今でも最前

線である手術室に立ち、患者の治療に力を尽くしています。

肝臓がんの治療法は進展を見せているものの、再発を起こす可能性は低いとは

言えないのが現状です。「肝臓がんの9割が肝細胞がんと言われるものですが、他のがんと違い、もともとあったがんをきれいに取り去っても、また新たに発生するという特徴があります。ですから、定期的に経過を見る必要があります」と佐々木院長。長く付き合う必要があるがんだと言います。

いまや、二人に一人はがんになる時代。

佐々木洋

八尾市立病院 病院長

大阪大学医学部卒。大阪府立成人病センターの消化器外科部長を経て、2009年、八尾市立病院の病院長に就任。大阪府病院協会副会長なども兼任する。肝臓がんの治療だけでなく、各種消化器がんの治療・研究においても国内トップクラス。2000年初頭、「肝細胞癌切除後再発予防のための術後アガリクス茸抽出液投与の有効性の検討」を学会発表。アガリクスの有効性を評価した。

三人に一人はがんで亡くなるというデータもあります。そんな中、佐々木院長は「がんで死んでほしくない。がんとの共生ではなく、治すために最善を尽くしています」と意欲的。肝臓は「沈黙の臓器」と

言われるほど自覚症状が現れにくく、発見が遅れがちです。しかし一方で、肝臓の一部が傷ついても、残った部分が機能を維持しようとする力強さもあります。

佐々木院長は「私たちの役割は、残された肝機能を活かし、患者さんの生活の質を元の状態に戻すことです」と力を込めます。

ある一人の患者さんが、アガリクスを教えてください

そんな佐々木院長のもとに、ある日、一人の患者さんが訪れました。肝臓がんの手術をしたものの、その後再発。再手術が必要となったそうです。ところが、再手術のための検査を行った佐々木院長は、その後の経過をみて驚きました。「何か特別なことをしましたか?」。そう聞くと、患者さんはこう答えました。「アガリクスを飲んでます」。

この一件をきっかけに、佐々木院長はアガリクスに注目。研究を開始したそうです。

研究では、肝臓がんの手術をした患者さん40人に、2年間、一日3回アガリクス

を飲んでもらい、検証。その結果、がんを攻撃し、体を守ろうとする免疫細胞「NK（ナチュラルキラー）細胞」にも注目できることがわかりました。

「医療にとって「副作用がない」ことは非常に重要

佐々木院長は、アガリクスが副作用を起さないことにも着目。2年間という長期の服用にもかかわらず、すべての患者さんが安全に服用できたことを高く評価しました。

佐々木院長は、副作用がないことの重要性について、次のように語ります。

「私たち医師は、がんを治すことを目標に日々治療をしています。やはり、医療だけではがんを完全に克服することはできない。そんなとき、アガリクスのようなサプリメントが患者さんを支える力になってくれれば、こんなにいいことはないと思います」。

サプリメントに難色を示す医師も少なくない中、佐々木院長は「副作用がなく、患者が納得して飲むのなら、治療と平行してサプリメントを服用してもいい」と考えています。その点、アガリクスは原料が明確なものであれば、厚生労働省が研究助成金による研究班の「がんの補完代替医療ガイドブック」にも、ヒト臨床試験の結果が報告されており、信頼性が確

認されています。

信頼できるサプリメントであれば、飲んでも問題はない。それによって気持ち前向きになり、治療に希望の光を見いだせるなら、それに越したことはない。そんな思いを垣間見ました。

バランスのとれた生活こそがんを防ぐコツ

一日のうち、三分の一は一人の医師として現場に立ち、三分の一は院長として管理職の業務をこなし、残りの三分の一は医師会などの公的活動に携わる佐々木院長。非常に多忙にもかかわらず、健康な体を維持しています。「これといって特別な健康法は行っていませんが、しいていえば、野菜中心の生活でしょうか。食事の六割くらいを野菜が占めていますよ」。

ただし、体に良いとされる野菜や運動であっても、偏るのはよくないとも。規則正しい生活と、バランスのとれた食事こそが、がんを遠ざける一番の特効薬だと言います。

食事が欧米化し、あふれるほど食べ物がある飽食の時代。そんな時代にありながら、バランスのとれた体を作るために、アガリクスなどのサプリメントを摂取する。それもまた、健康で元気な人生を送るために必要なことかもしれません。



佐々木洋 八尾市立病院長インタビュー

八尾市立病院
1946年、日本医療団八尾病院として開院。以後60年以上に渡り、大阪府八尾市民の健康を守り続ける。2009年には、5大がん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん)の診療体制を整えた「大阪府がん診療拠点病院」に指定。大阪東南部のがん医療の中核を担っている。病診連携にも熱心。